

令和4年度 授業評価アンケート分析

令和4年11月実施

<結果と分析>

	課題・成果等	改善策・向上策・目標等
国語	どの質問に対しても、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の回答が多かった。特に質問4、5、9については「よく当てはまる」が7割を超えた。評価の方法を明示することで、生徒の授業へのモチベーションを向上させる効果もあった。授業展開において今後も基本的なことを確実に実施していく必要がある。	今後も継続して、生徒が自らの成長を実感でき、達成感を得られるよう、課題や授業内容を工夫していきたい。目的意識を持って学習に取り組むことができるよう、目標や評価の方法を分かりやすく示していきたい。書く・読む・話す・聞くの4つの力をバランス良く伸ばすことができるように授業を展開したい。
地歴公民	「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えた生徒の割合が低いのは2『教え方がわかりやすい』や3『「できた」「わかった」と思うことがよくある』の項目であった。また、10『授業の進む早さは適切である』に関して、「よく当てはまる」と答えた生徒が3割であった。	授業の内容を精査したうえで、授業進度を調整したい。生徒が「わかった」と思えるような教材を準備し、生徒が授業に意欲的に取り組めるようにしたい。さらに、学習内容に関して自分の考えを持ち、ワークシートに記入したり、発表したりすることでより理解を深められるようにしたい。
数学	学習にまじめに取り組んでいる生徒が多いようであるが、授業内容のすべてが「分かった」となっていない状況が分析から見え課題となっている。	今まで以上に、分かりやすい説明や発問を心掛け、効果ある教材や工夫した学習プリントの活用を通じて3や4の数字が改善されるようにしていきたい。
理科	昨年度と比べ、ほとんどの項目で「あてはまらない」の割合が増加した。「集中できる雰囲気」「まじめに取り組んでいる」への否定的な回答が多ことから、生徒自身の授業に対する意識が低いことが、授業で「わかった」「できた」と感じられない要因となっていると考えられる。	学習内容や単元の目標をしっかりと提示していく。実験・観察やICT機器の活用を通し、科学に対する興味・関心を高めながら、学習内容の理解を深めていきたい。また、生徒の実態に合わせた授業展開と個別の声掛けにより、理科に対して苦手意識がある生徒も積極的に授業に参加できるようにしていきたい。
外国語	授業の内容に関して「よく当てはまる」もしくは「だいたい当てはまる」と解答した生徒が9割を超えた。このことから、授業内の学びポイントを把握した上で問題を解いていく生徒の主体性が見られた。授業において、基礎力の定着はもちろんのこと発展的なスピーキングやライティング問題もより多く導入して、生徒の英語力を発展的に伸ばしていきたい。	授業における主体性が分析結果から見られることから、より発展的なスピーキングやライティング問題を積極的に取り入れて、実践的に英語を活用する場面を用いて、英語の力をより伸ばしていきたい。英語力の習得だけにとどまらず、国際理解の授業も展開することで、世界的な問題を身近な問題として認識するなどの見識を広めていきたい。
保健体育	結果としては、概ね良好である。特筆すべきは、「当てはまらない」の数が0になったことである。より理解度を意識した授業をすることを目標としていたため、底上げできている証拠である。今後は、「よく当てはまる」の数が増えるように心がけていきたい。	ホワイトボードやiPadなど視覚教材を積極的に使い、知識や技術の獲得を促していきたい。プリントやワークなども引き続き使用していきたいが、本時の授業のポイントを確実に伝えつつ、興味をもって参加できるようにしていきたい。
芸術	7.9%の生徒が最初にその日にすることがわからず教え方がわかりにくいと回答している。5成績の出し方について、6授業に集中できる雰囲気について「よく当てはまる」が少なく、13%は、ややもしくはかなり授業に集中できないと感じている。	題材の説明の段階で、生徒の特性にあわせた提示方法の支援を検討する。授業の目標や評価方法を明示し、選択科目の観点別評価については題材毎に提示できるよう検討する。集中して作業や練習に取り組めるよう教室内の配置を工夫する。
家庭	よく当てはまると答えた生徒の割合が低かった項目は「教え方がわかりやすい」、「授業で「分かった」「できた」と思うことがよくある」であり、3割程度だった。一方で、「成績評価の明示」や「授業進度の適切さ」に関しては、半数以上の生徒がよく当てはまると答えている。	実物や写真をパワーポイントで提示し、視覚的に分かるように指導していきたい。また、グループワークや実習を通して、自分の意見をまとめ発言する力を育てていきたいと思う。専門教科「家庭」の科目においては、説明の仕方や方法の見直し・改善し「わかる授業」を実践していきたい。
情報	今年度からカリキュラムが大幅に変わり、昨年度との結果と比較するのは難しいが、昨年度に比べ、ほとんどの生徒が「よく当てはまる」や「だいたい当てはまる」と回答している。一部、授業の内容がわからないや実習ができないと解答しているため、その生徒にも目を配り、達成感を味わうような授業を展開していくことが必要であると考えている。	副教材の活用だけでなく、週末課題などを準備し、取り組むことで定着を図る。そのためにGoogleClassroom等を活用し、自分が持っているICT機器で自宅でも気軽に課題に取り組めるようにしていきたい。また、実習を伴う学習では、ITの先生と情報を共有し、生徒をサポートして与えられた課題が達成できるようにしていきたい。
農業	1 生徒に対する丁寧な説明や、評価の明確さ。 2 「その日にすること」「分かった」と思えるような授業 3 生徒の準備	1 継続していきたい。 2 授業開始時に実施内容と到達目標の提示をする。また「できた」と思えるような実習内容の工夫に取り組む。 3 教員側からの声かけを重ねることでの意識づけを図りたい。
工業	よく当てはまる、だいたい当てはまると回答する生徒がすべての項目で90%以上になっている。また、1年次は今年から専門的な内容にも意欲的に取り組んでいる姿が見受けられる。また、2、3年次も系列の授業以外の資格や校外活動などにも積極的に参加している。工作などの座学の授業で生徒の興味関心をどのように引き出していくかが課題である。	現在、全学年で5S講習会、1年次板金、2年次溶接、3年次溶接、課題研究、QC講習会など外部講師を招聘し指導にあたることで実技指導の充実を図っている。また、本年度からEdTECH導入支援を受けICTの活用の充実を図っている。今後も座学等でも更に活用しながら充実した授業にしていきたい。
商業	2割超の生徒が授業で「わかった」、「できた」と思うことがあるかとの質問に対し否定的な評価をしている。授業速さや教え方についても評価が低い。今年度より授業内容を変更し、難易度が上がった科目で、以上のような評価が目立った。生徒個々の学習に対する理解の程度をよく確認して、授業を展開していく必要性を感じる。また、内容についても再検討の必要がある。	生徒がじっくり考えて学習内容を定着させることができるよう、生徒の学習状況をよく観察し、効果的な学習課題を提供していくとともに、教授方法についての研究にも力を注いでいきたい。また、授業内容についても再検討していきたい。どの科目も宿題や小テストを取り入れ、家庭学習の定着を促し、成果も出ていることから、この取り組みについても継続的におこなってきたい。
福祉	1年次の社会福祉基礎は福祉が誕生する背景についての内容や文言がとてもしんどく、パワーポイントでイラストなどを多くし、理解をしやすくする工夫を今年度から行っていたが、それでもなお、わかりづらさと生徒が感じてしまう点に課題を感じた。	この結果を受け、視聴覚教材をもう少し取り入れたり、福祉の歴史に関しては、中学校で学ぶ社会の歴史とも関連してくるので、社会の復習から、丁寧に導入し、発展させていくことなどの工夫を行うことが必要だと感じた。